
約束の果て...

YUPPY

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束の果て…

【Zコード】

Z0668D

【作者名】

YUPPY

【あらすじ】

彼「ヒロ」と知り合ったのは友達の紹介からだった。始めはメルだけの付き合いだったが同じ学校でクラスが隣だと知りたまに会つては話したりして徐々にメル友から友達になり恋愛感情に発展していった。

第1話・告白（前書き）

彼と出会って1ヶ月が経ち私は決心した。

今日は彼に

「好き」って気持ちを伝えようと..

あの優しい笑顔と優しい話し方..

私はそこに惹かれてしまったのだ。

決してカッコイイとは言えないけどとにかく可愛い。

毎日あの優しい微笑みを見たいと思った。

私は朝彼に

「放課後学校校門前で待つててくれる？」とメールを送った。

彼の返事は

「大丈夫だよ！！でもいきなりどうしたの？」つてきた。

私は

「ただ一緒に帰りたいだけだよ！！」つて送った。

彼わ喜んでくれた。

私は朝から緊張して授業中も彼のことばかりで全然授業に集中出来なかつた：

やつと放課後になり心臓バクバクさせながら校門に向かつた

そこには私より先に彼がいた。

彼は友達と一緒にいた

私はなかなか彼のとこに向かうことが出来なかつた。

でも彼は私が近くにいることに気付き手を振つてくれた。

彼の友達も私に気付き帰つていつた。

友達がいなくなりやつと彼のとこに向かつた。

彼は

「一緒に帰るの初めてだから緊張するな」と照れ笑いした。

私は

「そおだね」と静かに言つた。

彼は

「元気ないけど何かあつたの?」って話してきた。

私は緊張し過ぎてその場から逃げたかった：

でもそこで逃げたら気持ち伝えぬまま微妙な関係で終わってしまうから頑張つて伝えた。

「実はね初めてあなたと出会つてあなたの優しい微笑みと優しい話し方に心が揺れたの。

日が経つにつれ好きつて気持ちが膨らんできてあなたと付き合つたいなあって感じたの。

あなたは私のことどお思つているかは私には分からぬケド私は貴方のことが大好きなんです。

よかつたら付き合つてくれませんか…」って…

第1話・告白

彼と出会いって1ヶ月が経ち私は決心した。

今日は彼に

「好き」って気持ちを伝えようと

あの優しい笑顔と優しい話し方…

私はそこに惹かれてしまったのだ。

決してカツコイイとは言えないけどとにかく可愛い。

毎日あの優しい微笑みを見たいと思った。

私は朝彼に

「放課後学校校門前で待つててくれる？」とメールを送った。

彼の返事は

「大丈夫だよ…でもいきなりどうしたの？」つてきた。

私は

「ただ一緒に帰りたいだけだよ…」つて送った。

彼わ喜んでくれた。

私は朝から緊張して授業中も彼のことばかりで全然授業に集中出来なかつた：

やつと放課後になり心臓バクバクさせながら校門に向かつた

そこには私より先に彼がいた。

彼は友達と一緒にいた

私はなかなか彼のとこに向かうことが出来なかつた。

でも彼は私が近くにいることに気付き手を振つてくれた。

彼の友達も私に気付き帰つていつた。

友達がいなくなりやつと彼のとこに向かつた。

彼は

「一緒に帰るの初めてだから緊張するな」と照れ笑いした。

私は

「そおだね…」と静かに言つた。

彼は

「元気ないけど何かあつたの?」って話してきた。

私は緊張し過ぎてその場から逃げたかった：

でもそこで逃げたら気持ち伝えぬまま微妙な関係で終わってしまうから頑張つて伝えた。

「実はね初めてあなたと出会つてあなたの優しい微笑みと優しい話し方に心が揺れたの。

日が経つにつれ好きつて気持ちが膨らんできてあなたと付き合つたいなあつて感じたの。

あなたは私のことどお思つているかは私には分からぬケド私は貴方のことが大好きなんです。

よかつたら付き合つてくれませんか…」って…

第2話・結果

彼の返事は

「実は俺もユリのこと好きだつたんだ。

俺もユリの笑顔素敵だし優しくて話してて癒されるんだ。

俺も気持ち伝えたかったんだけどなかなか伝えらんなくて…

私は凄く嬉しくて改めて

「こんな私だけど付き合つてくれませんか?」と聞いた。

彼は

「もちろん!!

よろしくね。俺の彼女としね。」

私は嬉しくて涙が止まらなかつた。

彼は優しく頭をなでてくれた。

私はこの人となら上手くいくと実感した。

数分後やつと涙が止まり彼が

「やつと涙止まつたね。こんな俺を好きになつてくれてありがとう。もお暗くなつてきたし帰ろうか」つて。

私は

「うん!!

帰ろつか!!!」つて元気に言つた。

自転車を押しながら歩いて帰つていつた。

このときはお互い恥ずかしくて会話は弾まなく黙つたまんまだつた。

学校から私の家まで歩いて50分あるケド何も話さず着いてしまつ

た。

彼は

「明日も一緒に帰ろうな。

明日はたくさん話しそおな。

家着いたらメールするから。

じゃ、また明日な!!」つて言つて帰つていつた。

家に着いてしばらく経つてからから彼からメールがきた。

「今日は嬉しかつたよ。

これからわユリの彼氏としてしつかりしなきやな！！

ユリもこれから俺のことヒロって呼んでな！！」って。

私はこれからヒロの彼女としてヒロをずっとずっと愛したいと思つ。

私はヒロが大好きだ！！

毎日一緒にいたい。

毎日顔見て話したい。

心からそう思つた。

第3話・デート

今日はヒロと初デート！！

昨日は楽しみと緊張で一睡もしていない。

あ～あ～！！

楽しみ～～！！

後1時間後にはヒロが迎えに来てくれる！！！
てかなに着てこうかなあ～～

ヒロはどんな服が好みなのかなあ～～

こんな服は好きなのかなあ～～

とかいろいろ考えながら服を探して私の1番お気に入りのワンピースを着てみた。

軽く化粧もして準備万端！！

あとは彼が来るのを待つのみ。。。

心臓バクバク…

気持ち落ち着かない…

そしてしばらくしてヒロから

「今玄関前にいるからね」とメールが来た！！
ヤバイ～～

ますます緊張してきたあ～～

ドキドキバクバク～～

でも緊張を隠しながら玄関の扉を開け元気よく

「おっはよー～～」って言つた。

ヒロはビックリした顔で

「今日はテンション高いなあ～～」って言つてきた。

私は

「そりや当たり前ぢゃん～～

デートなんて初めてだもん～～」って強く言つた。

ヒロはあの優しい笑顔を見させてくれた。

今日のデートは前々から約束してたカラオケ！！

お互いカラオケ好きってこともあつたからすぐデート先は決まった。
近くのカラオケ店に着きどつちから歌うかで軽くもめた。

ジャンケンで私が負けたから私が先に歌うはめに…

私は大塚愛のプラネタリウムを選曲した。

また心臓バクバクしてきたあ…

でも頑張つて歌つた！！

曲が終わつてヒロからの一言は

「歌うまいじやん！！」

うまくてビックリした！！」だつて！！

私それ聞いたときめつちゃ嬉しかつた！！

照れちゃつたケドね！！

「次ヒロの番だよ！！

早く聞かせて…！」

ヒロは一生懸命曲を探してた。

そしてやつと入れた曲がスピッツのチョリー。

私の大好きな曲だ。

曲が流れ始め初めてヒロの歌声を聞いた。

声が透き通つていて優しい歌声だつた。

サビに入ったとき私の顔を見て歌つてくれた。

私は感動して泣きそうになつた。

私の為に一生懸命歌つてくれた。

歌も上手くて鳥肌がたつた。

ヒロは

「下手くそだつたろ？」

下手くそな歌聞かせてごめんなあ。」つて言つてきたけど私は全然下手なんて感じなかつた。

寧ろその逆だよ！！

「上手いから！！

マヂ上手くて感動したかんね！！」つて伝えたたら優しく

「ありがとう」「って言つてくれた。

カラオケに5時間居てずっと歌い続けた。

「もお暗くなつてきたからそろそろ帰らぬい?」って聞いてみたら
ヒロは

「だね。今日は早田に帰らうね。」と素直に聞いてくれた。
今日は遙く楽しい一日だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0668d/>

約束の果て...

2010年11月4日13時16分発行